

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

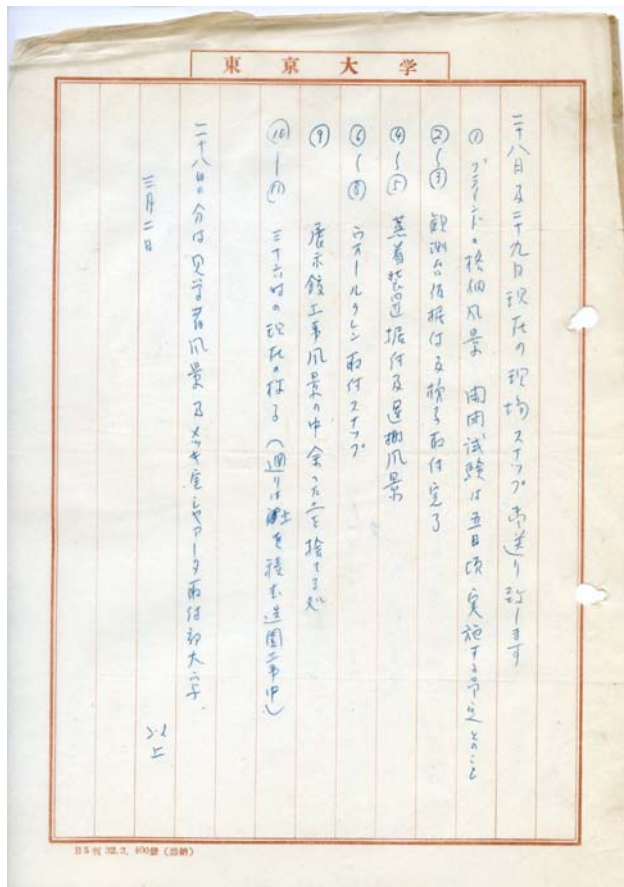
*** 東京天文台 100 周年記念誌資料—その 3-32-2 (岡山天体物理観測所造成工事写真)**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞 346 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料—その 1—」、349 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料—その 2—」、353 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料—その 3—」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱 3 個に入っていたので 1 箱目を—その 1—、2 箱目を—その 2—、3 箱目を—その 3—とし、その内容のリストを作成し報告した。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかつてにピックアップして書いている。今回は 3 箱目の 32 項目の 1960 年 (昭和 35 年) 3 月 2 日報告分 (2 月 28、29 日撮影)、3 月 2 日撮影分について報告したい。第 353 号のリストには、

32. 横 A3 なめこ表紙でつづった岡山建設時のアルバムの一部

28 日及び 29 日現在の現物スナップお送りします (写真左下: 3 月 2 日付の送り状)

- ① ブラインドの格納風景 開閉試験は 5 日頃実施する予定とのこと
- ② ~③: 観測台仮据付及び梯子取付完了



- ④ ~⑤: 蒸着装置据付及運搬風景
- ⑥ ~⑧: ウォークレール取付スナップ
- ⑨: 展示館工事風景の中の余った土を捨てる処
- ⑩ ~⑪: 36 インチの現在の様子 (廻りは土を積む造園中)

28 日の分は見学者風景及メッキ室シャッター取付部大写真 以上とある。

写真(1)はブラインドの格納風景とある、188 cm 望遠鏡ドームスリット扉の内側には風よけブラインドが設置されている。写真(2)、(3)は観測台仮据付及び梯子取付完了とある。この観測台はニュートン焦点での観測に使われるもので、梯子は観測台に上るためにスリット側面につけられている。



写真(1)



写真(2)



写真(3)



写真(4)



写真(5)

写真(6)～(8)はウォールクレーン取付スナップ写真である。



写真(6)



写真(7)



写真(8)

写真(9)は展示室工事風景の中、余った土を捨てるどころと脚注にある。展示室は岡山天体物理観測所建設の際、岡山県が設置した「岡山天文博物館」である。この余った土を捨てた場所は、後に大挙して訪れる見学者のバスのための予備の駐車場として用いられ、観光客が減少してからは観測所職員のテニスコートとして活用された。写真(10)、(11)は 36 インチの現状の様子（廻りは土を積む同園工事中）と脚地位に記載がある。36 インチ (91 cm) 望遠鏡ドームは 188 cm 望遠鏡ドームに先駆けて完成していたのである。階段には工事中との立札が経っている。



写真(9)

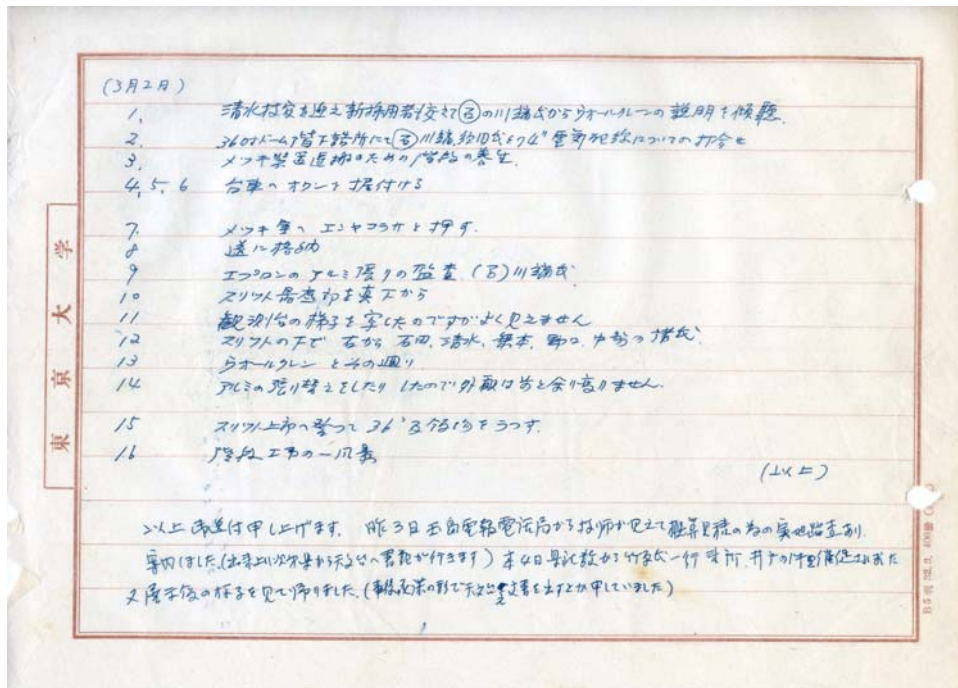


写真(10)



写真(11)

写真(下) はやはり 3月2日付の写真の送り状である。



写真(1)の脚注には、清水技官を迎え新採用者も交えウオールクレーンの説明とある。右側2人が右から乗本、野口の新採用の両者である。



写真(1)



写真(2)



写真(3)

写真(2)の脚注には「36 インチドーム階下にて 74 インチ電気配線の打ち合わせ」とある。すでに完成していた 36 インチドームの部屋が打ち合わせに用いられていたことがわかる。写真(3)の脚注には「メッキ装置運搬のための階段談養生」とある。

写真(4)～(8)は蒸着装置の設置の工事風景であり、写真(4)～(6)の脚注には「台車へおわんを据付ける」とある。写真(7)には「メッキ室へエンヤコラサと押す」、写真(8)には「ついに格納」と書かれている。



写真(4)



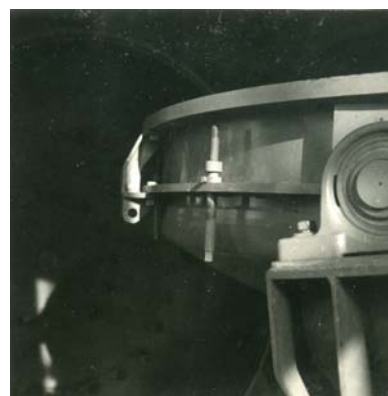
写真(5)



写真(6)



写真(7)

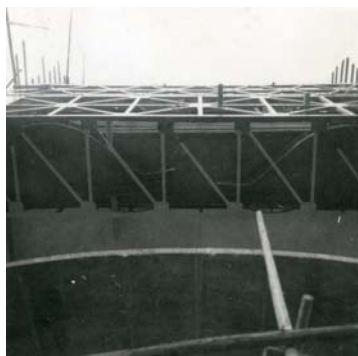


写真(8)

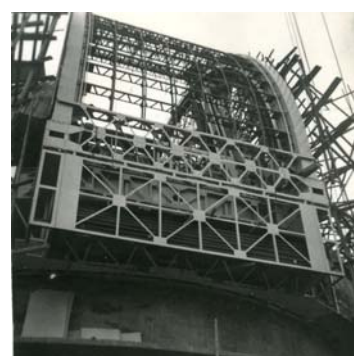
写真(9)の脚注には「エプロンのアルミ張りの監査」、写真(10)の脚注には「スリット最低部を真下」、写真(11)の脚注には「観測台の梯子」とある。



写真(9)

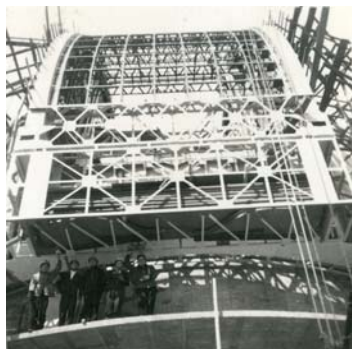


写真(10)



写真(11)

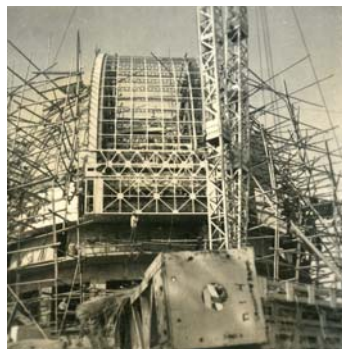
写真(12)の脚注には「スリットの下で右から石田、清水、乗本、野口、中務の諸氏」とある。人物の部分の拡大したものが写真(13-2)である。写真(13)の脚注には「ウォールクレーンのその廻り」、写真(14)の脚注にはアルミの張り替え」とある。



写真(12)



写真(13)



写真(14)



写真(12-2) 右から石田、清水、乗本、野口、中務の諸氏

中務氏は岡山天体物理観測所に最初に採用された運転手であった。石田、清水、乗本の各氏はすでに鬼籍に入り、時の流れを感じる。写真(15)の脚注には「スリット上部より 36 吋反射物」、写真(16)の脚注には「会談工事の一風景」とある。



写真(15)



写真(16)

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp